

【研究主題】

今や未来を自分事として考えられる児童の育成 ～ESDの視点に立った主体的・協働的な学びを通して～

令和 8 年 2 月 20 日 (金)

生活科・総合的な学習の時間



あいさつ

練馬区教育委員会
教育長 三浦 康彰

次期学習指導要領の改訂に向けた教育課程企画特別部会における論点整理では、多様な子供たちの「深い学び」を確かなものにするための基本的な考え方として、生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることができる民主的で持続可能な社会の創り手をみんなで育むことが示されました。

そうした中、本校は、研究主題を「今や未来を自分事として考えられる児童の育成～ESDの視点に立った主体的・協働的な学びを通して～」とし、他者との関わり合いの中で、「問いをもつ力」「情報をえらぶ力」「解決する力」「分かりやすく伝える力」「活用する力」を育むことを軸に研究を重ねてこられました。

研究では、SDGsの実現に寄与し、持続可能な社会の作り手を育成するESDの視点を踏まえ、教科等横断的な指導計画の作成や、主体的・協働的な学びの実現に向けた手だての実践を通して、研究主題の核心に迫りました。

その結果、児童が地域や社会とのつながりを大切にしながら、主体的に行動し、課題を探究しようとする姿が見られたことは、大きな成果と捉えています。

結びに、2年間の研究に格別のご指導を賜りました多摩市立連光寺小学校前校長・全国小中学校環境教育研究会顧問 棚橋乾先生ならびに杉並区立西田小学校前校長 鈴木朝代先生に深く感謝申し上げますとともに、本研究を推進してこられました後藤京子校長をはじめとする教職員の皆様に心より敬意を表し、あいさつといたします。

はじめに

練馬区立春日小学校
校長 後藤 京子

私たちが暮らす世界には、気候変動、生物の多様性の損失、貧困や格差、人権侵害など多くの課題が溢れています。これらの課題を解決し、子供たちが将来豊かな生活を確保するために、一人一人がこれらを「自分事」として主体的に捉え、身近なところから学習に取り組むことで、その解決につながる新たな価値観の確立や行動の変容を行うことが必要です。

本校では、毎日稲を見ては日当たりや水の量を工夫したり、給食の残食を減らすために苦手な食べ物を一口でも食べようとしたり、練馬大根の伝統を守りたいとの思いから、タブレットで写真を撮りながら大根の成長を喜んだりするなど、それぞれの気づきや思いから課題を見付け、探究活動を行ってきました。

持続可能な社会を担う子供たちを育てるために「ESDの視点を取り入れたカリキュラムマネジメント」「主体的・協働的な学びへの手だて」を工夫し、地域や社会とのつながりを大切にしたい「誰一人取り残さない」春日の学びを追究してきました。

本研究を進めるにあたり、令和6年度は、杉並区立西田小学校前校長 鈴木朝代先生、令和7年度は、多摩市立連光寺小学校前校長・全国小中学校環境教育研究会顧問 棚橋乾先生に懇切丁寧なご指導を賜りました。厚く御礼を申し上げます。

そして、研究の機会を与您えいただき、様々なご指導・ご支援くださいました練馬区教育委員会の皆様に心より感謝申し上げます。



練馬区立春日小学校

〒179-0074 東京都練馬区春日町5-12-1 TEL : 03-3926-7102





学校教育目標

か 考えて正しく行動する子ども
す 素直で思いやりのある子ども
が がんばりぬく元気な子ども



児童の実態

- ・SDGsに関する知識、理解は深まっている。
- ・SDGsへの興味関心は高い。
- ・課題解決に向け、主体的に自分の考えをもち、伝え合うことができる。
- ・探究的な学びの経験が少ない。

教師の願い

- ・SDGs17の目標を自分事として捉えられるようになってほしい。
- ・自分たちの住む地域や社会の課題を見だし、自分事として、課題を解決していく方法を考え、行動に移せるようになってほしい。

今や未来を自分事として考えられる児童の育成 ～ESDの視点に立った主体的・協働的な学びを通して～

育成したい資質・能力

問いをもつ力

情報をえらぶ力

解決する力

分かりやすく伝える力

活用する力

目指す児童像

- ・自分事としてSDGsに関心をもち、既習したことを生かして主体的に課題を解決しようとする子
- ・地域や社会とのつながりを大切にできる子

低学年

課題と自分とのつながりを感じられる子

中学年

地域や社会とのつながりを意識し、課題を見付け、自分の考えをもつ子

高学年

地域や社会とのつながりを大切にしながら、自分の考えを実践し、学び続けようとする子



研究仮説

ESDの視点を取り入れた教科等横断的な指導計画を作成し、主体的・協働的な学びを実践していくことで、育成したい5つの資質・能力が育まれ、自分事として探究のサイクルをまわすことができるようになるだろう。

つながりを大切にした「誰一人取り残さない」春日の学び

主題にせまるための手だて

※()内は、生活科

ESDの視点を取り入れたカリキュラムマネジメント

- ①教科等横断的な指導計画
- ②地域、外部人材の活用
- ③総合的な学習の時間における年間を通した学習テーマの設定

主体的な学びへの手だて

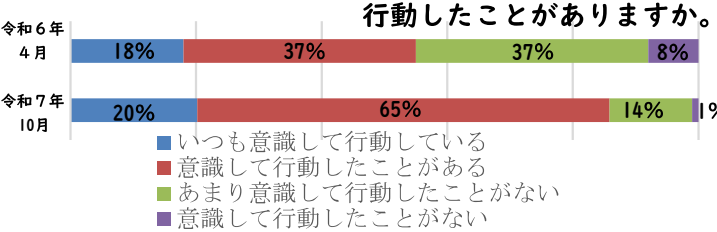
- ①課題設定の工夫
(思いや願いをもつための工夫)
- ②意図的な発問
(気付きを促す工夫)
- ③次につながる振り返り

協働的な学びへの手だて

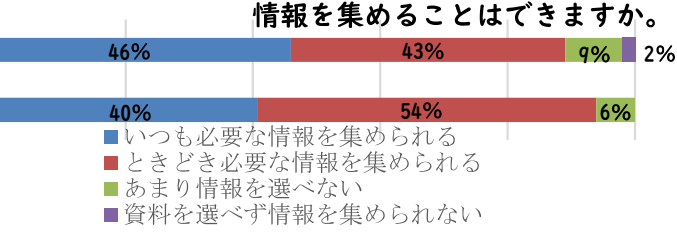
- ①情報の集め方の工夫
(活動や体験の工夫)
- ②話合いの場の設定
(関わり合いの場の設定)
- ③発表、表現の工夫

評価① 児童の意識調査について（対象：3学年～6学年）

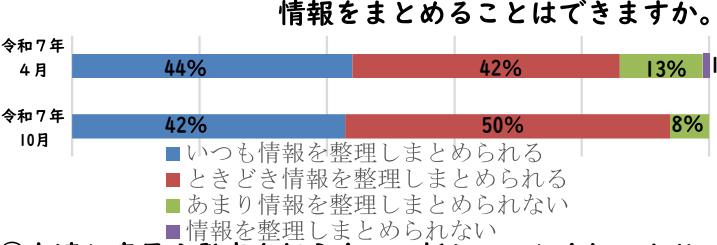
① 普段の生活の中で、SDGsのことを意識して



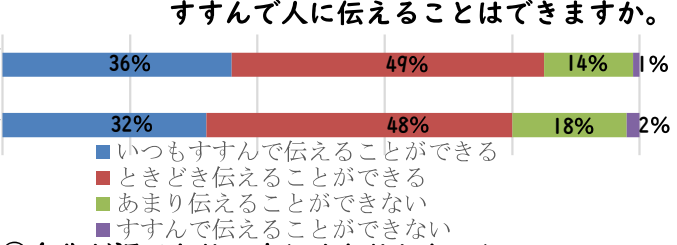
② 多くの資料の中から必要なものを選んで



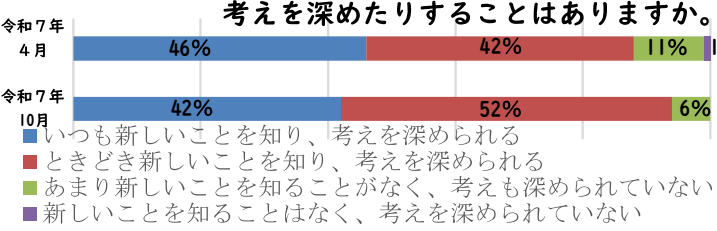
③ 調べたことを整理したり、選んだりして



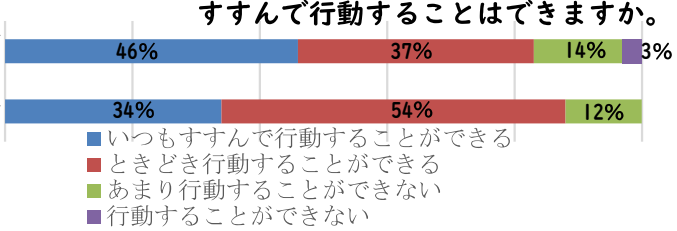
④ 自分が調べたり、まとめたりしたことについて、



⑤ 友達と意見や発表を伝え合って新しいことを知ったり、



⑥ 自分が調べたり、まとめたりしたことについて、



評価② 振り返りシート

次につながる振り返り

・インタビューから気付いたこと

第3章では、今までに「自分自身、自分の中に、誰かのために努力できる人、を求めています。」

・友達との振り返りから気付いたこと

あの仕事を理解する必要があるから私が気になっている仕事のことを次に調べたいと思った。(〇〇ページを聞いて)

評価③ 本校の学力調査の結果（令和7年4月17日実施）

質問項目	本校	全国
① 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいましたか。	45.5%	29.0%
② 5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。	45.5%	28.7%
③ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。	49.1%	40.9%
④ 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。	61.8%	49.9%

【成果】

- 各学年で探究的な学習を行ったことで、意識調査②・③の結果から、必要な情報を集めたり選んだりする力や、それをまとめて解決する力が身に付いたと感じる児童が増えた。また、意識調査①より、2年間の研究によって、SDGsを意識して行動しようと心掛ける児童が研究当初よりも大幅に増加した。
- 各学年で、主体的な学びへの手だてを工夫したことで、意識調査⑥の結果から、課題を自分事として捉え、すすんで解決しようとする主体性が高まった。また、地域や社会とのつながりを大切にしながら、協働的な学びへの手だてを研究したことで、意識調査⑤の結果のように、友達と考えを話し合うことを通して、考えを広げたり深めたりする児童が増加した。
- 総合的な学習の時間や生活科と、他教科との関わりを考えたカリキュラムマネジメントを行ったことで、教師側も見通しをもった指導や支援を考えることにつながった。また、課題設定の工夫や意図的な発問、次につながる振り返りを積み重ねることで、学習後も自らの学びに興味をもち、意欲を持続する児童が増えた。
- 全国学力・学習状況調査の結果から、関連する項目において、全国よりも高い値を示している。

【課題】

- 意識調査④「自分が調べたり、まとめたりしたことについて、すすんで人に伝えることができますか」では、令和7年4月の調査と比べてやや下回った結果となった。改善策として、友達・下級生・学校全体・地域など、伝える対象を児童に考えさせたり、伝えることの良さを実感させたりする経験が大切であると考え。児童からすすんで「学んだことを伝えたい」「教えてあげたい」などの思いをもてるように、引き続き学校全体として研鑽に励んでいきたい。

ESDの視点を取り入れたカリキュラムマネジメント

視点① 教科等横断的な指導計画

ESDカレンダーを各学年で作成（右図参照）し、SDGs17の目標と関わりの深い単元を教科間で整理した。

視点② 地域、外部人材の活用

地域と連携し、体験学習やゲストティーチャー（以下、GT）の継続的な関わりによる学習効果の高まりを目指した。

視点③ 総合的な学習の時間における年間を通じた学習テーマの設定

年間を通じて、SDGsと関連したテーマを設定し、探究的な学習を通じて、児童の主体性の育成を図った。

6年 ESDカレンダー

教科領域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	国語の基礎を固めよう	国語の基礎を固めよう	国語の基礎を固めよう	国語の基礎を固めよう	国語の基礎を固めよう	国語の基礎を固めよう	国語の基礎を固めよう	国語の基礎を固めよう	国語の基礎を固めよう	国語の基礎を固めよう	国語の基礎を固めよう	国語の基礎を固めよう
算数												
理科												
社会												
総合的な学習の時間	未来の自分とみんなの社会をつくろう											
特別活動												
道徳												
外国語												
音楽												
図工												
体育												
家庭												

3年「つながりを大切に～地域・教科・仲間～」

視点① 教科等横断的な指導計画

総合的な学習の時間を中心に、地域の方と交流しながら練馬大根の未来について考えを深めるとともに、社会科では「農家の仕事」の学習で土作りの大切さについて学んだり、道徳科で「練馬大根」の教材を扱い、練馬大根に関わる方たちの思いに気付いたりしたことを十分に活用しながら、探究的な学習を進めた。

視点② 地域、外部人材の活用

練馬大根に関わる様々な専門家に会い、実際に体験したり、直接取材して情報を収集したりした。また、単の後半には、これまでに取り組んできたことを基に、練馬大根の伝統をつなげていくために自分たちができることを考え、専門家に再度相談しながら実効性を高めた。



6年「他教科で培った力を総合へ」

視点③ 総合的な学習の時間における年間を通じた学習テーマの設定

年間を通じて、SDGsと関連したテーマを設定し、探究的な学習を重ねることで、自己の興味や将来像、持続可能な社会の実現に向けた取組について多面的に考え、表現できる力を育むこととした。単元全体を第1次から第5次に分け、移動教室でのインタビューや発表を通じて、社会とのつながりを意識したり、多様な仕事に触れる機会を設けたりした。第5次では、SDGsとのつながりを意識して職業について考え、よりよい将来や社会について意見を発表するなどした。



主体的な学びへの手だて

視点① 課題設定の工夫（思いや願いをもつための工夫）

児童が「やってみたい」という気持ちをもてる学習になるよう、教材との出会いや導入時の言葉掛けを工夫した。

視点② 意図的な発問（気づきを促す工夫）

教師が取組内容を指示するのではなく、児童が次に何をしたいのか、何をすべきなのかについて発問し、児童が自分で課題に気づき、取り組めるようにした。

視点③ 次につながる振り返り

授業の毎時間に振り返りを行い、次時に学習すべきことを整理し、計画的かつ意欲的に学習を進められるようにした。



1年「自校の魅力的な自然を生かして」

視点① 課題設定の工夫（思いや願いをもつための工夫）

一年間を通して、身近で魅力的な自然のある校庭を中心に、四季によって変化する自然を探したり、その中で遊んだり繰り返し自然と触れ合うことで、自分なりの思いや願いをもって活動できるようにした。また、活動の様子は季節ごとに掲示物としてまとめ、活用できるようにした。

視点③ 次につながる振り返り

自分がやってみたい遊びを選択したり、振り返りで次にやってみたいことを考えたりすることで、意欲的に活動できるようにした。



5年「何でも自分たちで」

視点② 意図的な発問（気づきを促す工夫）

バケツ稲栽培セット付属のマニュアルは児童に渡さずに、種のみだけを渡した。「どうやったら上手に育てられるのか」について、授業の最初に発問し、児童が主体的に育て方を調べたり、友達にアドバイスを聞いたりして、工夫しながら稲を育てることができるようにした。また、GTに山形県の農家の方を招き、農家の方の苦労や思い、願い、喜び等、生の声を聞くことで、自分たちも頑張ろうという意欲を高めることができた。



協働的な学びへの手だて

視点① 情報の集め方の工夫（活動や体験の工夫）

インターネットや図書資料だけでなく、体験したり直接相手に質問したりする中で、具体的な情報を集められるようにした。

視点② 話し合いの場の設定（関わり合いの場の設定）

興味をもった課題ごとにグルーピングを行い、個人→グループ→全体で話し合いをすることで、学び合いが深まるようにした。

視点③ 発表、表現の工夫

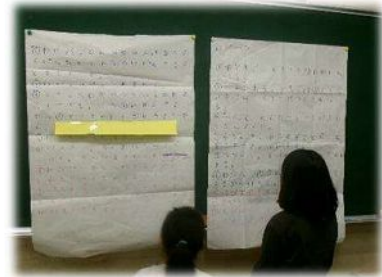
グループで学習してきたことが、相手に分かりやすく伝わるように、発表方法をグループで考え、試行錯誤しながら、発表につなげられるようにした。



2年「地域の人々の笑顔のひみつとは」

視点① 情報の集め方の工夫（活動や体験の工夫）

町探検では、「町の人々が笑顔で働くことができる秘密はなんだろう」をテーマに、図書資料で調べるだけでなく、グループでインタビューしたい内容を話し合わせ、地域や保護者に直接インタビューする機会を取り入れた。調べて分かった内容を児童同士で共有し合い、自分では気付けない視点に目を向けられるようにした。



4年「話し合って解決していく」

視点② 話し合いの場の設定（関わり合いの場の設定）

支援を必要とする幼児から大人までの地域の方々との体験活動を通して、当事者の立場に立って考える学習を行った。様々な体験からの学びを整理し、児童が深めたいと思うテーマでグループ分けをし、フィールドワークを行った。

視点③ 発表、表現の工夫

各グループで決めたテーマに沿って、新聞、ポスター、スライドまたは紙芝居等の発表形式を選択し、発表資料を作成した。設定したテーマについて、ペアグループで練習し、相手に伝える発表方法の工夫を重ねた。



探究的な学習の流れ（生活科）

ふりかえり

② かったよ ③ のしかったよ
④ ンばったよ ~⑤ たい

- ・みじかな人^{ひと}や社会^{しゃかい}、しぜんとの^で出会い
- ・「見^みたい」「知^しりたい」「やっ^やてみたい」
という^{おも}思いをもつ
- ・イメージマップで^{ひろ}広げる

おも
思^{おも}いやねがい
をもつ

あ
つたえ^あ合う

かつ^{かつ}たい
活^{かつ}どうや体^{たい}けん
を^をする

かん^{かん}じる
考^{かん}える

- ・かんさつする ・つくる
- ・本^{ほん}でしらべる ・あそぶ
- ・たんけんする
- ・インタビューする
- ・友^{とも}だちと教^{おし}え合う・助^{たす}け^あ合う

い
行^いったりき^きたりする

- ・見^みつける ・気^きづく
- ・かんそうをもつ
- ・たとえる ・くらべる
- ・ためす ・くふうする

- ・はっぴょう会^{かい} ・ポスター ・げき
- ・かみしばい ・ペープサート
- ・うた ・しんたいひょうげん
- ・おみせ ・クイズ

とも
友^{とも}だちのよさ
じぶん
自^じ分の^{ぶん}がんばり^り・せい^{せい}長^{ちよう}

探究的な学習の流れ（総合）

振り返り

- ・本物との^で出会いと気^き付き
- ・体験活動やゲストティーチャー
- ・実社会の課題からの問題意識
- ・思考ツールやイメージマップ

課題の設定

まとめ・表現

情報の収集

整理・分析

- ・本、新聞、パンフレット
- ・インタビューやフィールドワーク
- ・実験や観察
- ・インターネット

- ・「見える化」した話し合い
- ・グラフや図、写真の活用
- ・思考ツールの活用

- ・発見や自己の考えを表現する
- ・相手に伝えて話し合う
- ・多様な発表方法から選択する
- ・課題解決に向けた行動をする

教科等横断的な指導の工夫

カスガモランド(異学年交流)

毎月1回縦割り班で、6年生の班長を中心に遊びを考え交流している。異学年児童とのつながりを深め、より良い学校生活を送ることができるようにしている。また、交流する中で問題に直面したとき、お互いのことを考え、集団の力で解決を図るようにしている。

みんなで遊ぶ楽しさを経験する中で、思いやりや認め合いの気持ちを育てる。



あいさつ運動

「きもちがいいね そのあいさつ相手の目を見て明るい声で」をスローガンに、各学年であいさつ運動を行っている。



昇降口や正門に立ち、明るい声で校内に挨拶を響かせている。高学年になると、みんなで気持ちの良い挨拶を交わすために、どんな工夫ができるのかを主体的に考えて実行できるようになってきた。

また、児童は、学校の前を通る地域の方々と挨拶を交わすことができ、地域とのつながりが深まっている。

委員会活動

保健・給食委員会:「食べ残しを減らそう」

残菜の量をおにぎり何個分に換算し、昼の校内放送で発表したり保健室前に掲示したりした。

放送委員会:「SDGsラジオを聞こう」

昼の校内放送で毎月2回、ラジオ番組を流して様々な取組を紹介した。

園芸委員会:「ネイチャーゲーム」

校内にある樹木の不思議や仕組みを学び、クイズにして自然に触れ合う楽しさを呼びかけた。



SDGsコーナー(学校図書館)

学校図書館の目立つところに

「SDGsコーナー」を用意した。

SDGsについて知るための入門書から、各目標に関する調べ学習用の図書、さらにSDGsに関わりの深い読み物や、低学年でも読める絵本など含めると、約100冊ほどあり、自由に読むことができる。



また、図書の時間を活用し、学校司書による関係図書の紹介や読み聞かせも行っている。

おわりに

副校長 市村 大

「10年ひと昔」と言われますが、今は10年経たなくとも様々なことが大きく変化し、10年前の常識が通用しなくなってきました。今学んでいることを「今」という時間軸だけで考えると、児童が大人として活躍する「未来」には、そのほとんどが通用しません。「今」の学びを「自分事」として「未来」にも通じる普遍的なものにするために、「ESD」という視点で研究を深めてきました。この視点は、児童だけでなく、教員にも新しい可能性をもたらせたと感じています。この研究を次年度以降もどうつなげていくか、それが宿題だと思っています。

最後に、令和6年度にご指導いただいた鈴木 朝代先生、令和7年度にご指導をいただいた棚橋 乾先生、今回の研究の機会をいただいた練馬区教育委員会の皆様に、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。